

議会だより けんぶち

152号

2025年12月発行
剣淵町議会



剣淵町議会YouTube

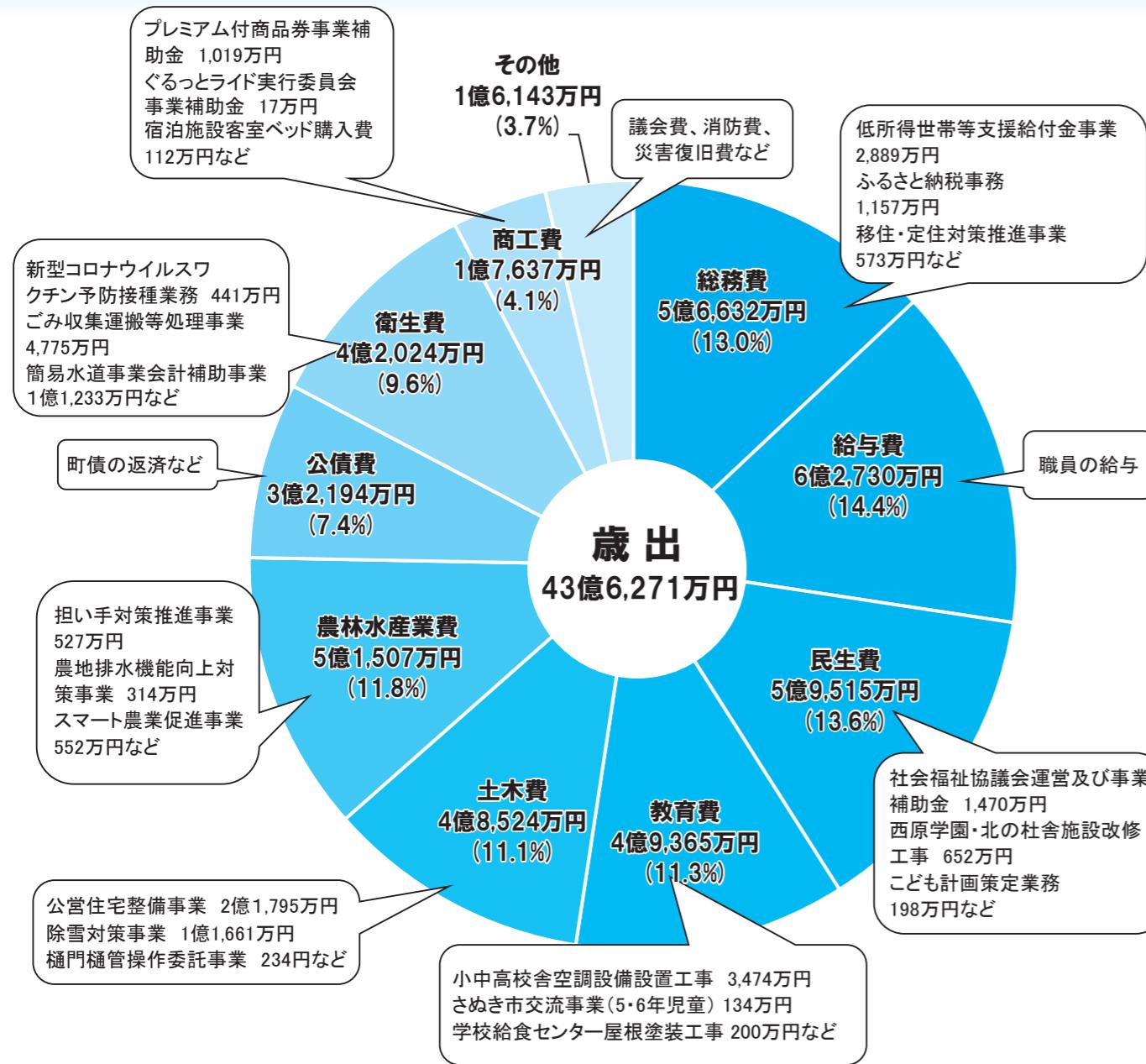


剣淵町公式HP



決算審査報告	2 ~ 3
決算審査特別委員会	4 ~ 7
第3回定例会・第4回臨時会	8
一般質問に6氏が登壇	9 ~ 14
この4年を振り返って	15
トピックス・編集後記	16

各学校の空調設備設置を迅速に対応



各会計決算状況

	歳入	歳出
一般会計	44億7,841万円	43億6,271万円
特別会計	5億4,516万円	5億3,788万円
公営企事業会計	1億1,034万円	9,932万円
国民健康保険事業	6,682万円	6,382万円
後期高齢者医療	4億9,046万円	4億6,928万円
介護保険事業	1億8,351万円	1億3,459万円
簡易水道事業	1億8,854万円	1億9,859万円
下水道事業		

令和6年度ふるさと納税 (企業版含む)

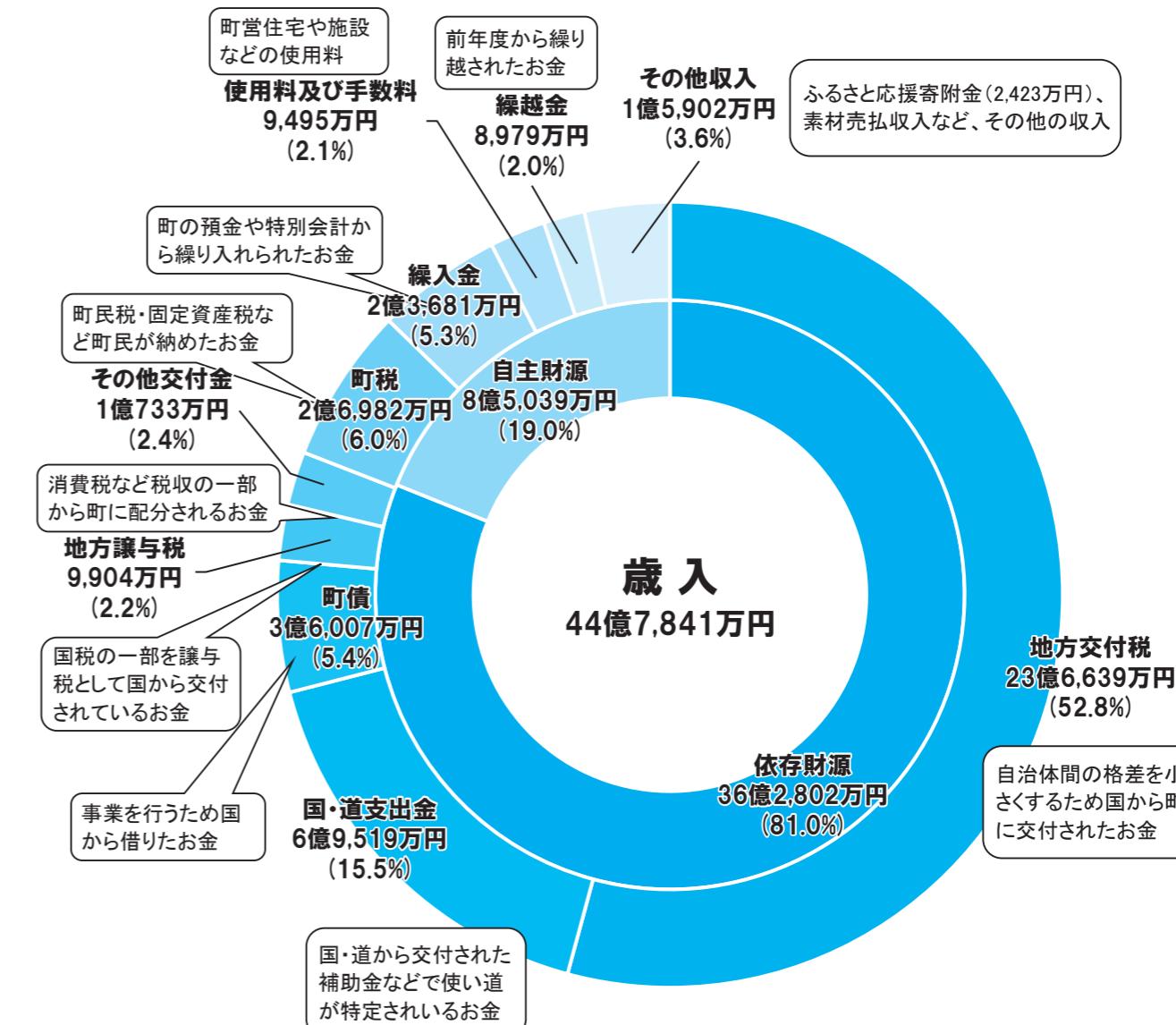
件数…1,469件
総額…2,603万円

ふるさと納税にかかる経費

1,157万円

需用費 5万円
役務費 250万円
委託料 902万円

令和6年度 決算審査報告



各地でお米のふるさと納税が伸びている中、剣淵町が伸びないのは残念であり、英知を絞って商品開発を進めていただきたい。近年の厳しい温暖化により、子どもたちの健康が心配されます。しかし、子どもたちの健康が心配されますが、小、中、高校すべてにおいて、空調設備設置工事に対応して乗り越えていただきたいと思います。決算審査で各委員から出された意見を次年度の予算編成に反映されることを強く望み、委員長報告いたします。

1億1570万円となり、実質収支額は9329万円の黒字を確保しました。財源が乏しい中、必要な補正予算を行いましたが、財政調整基金に7675万円、減債基金に7644万円、公共施設基金に1054万円を積み立て次年度以降の行政執行に備えたところあります。

一般会計決算は歳入総額44億7,841万円、歳出総額43億6,271万円で差し引き

決算審査特別委員会

決算審査特別委員会

審議の中で出された質疑の中から抜粋して掲載します。

歳入

たばこ税

卯城委員

たばこ税が減つてきている。国道でたばこ販売のため道の駅で扱つてはどうか。

萩尾町づくり観光課長

以前は販売をしていた経過もあるが、種類も多く在庫を抱えてしまつたこともあります。取り組めない。

法人税・消費税

竹内委員

法人事業税と地方消費税交付金

野村総務課主幹

全国的な額が伸びているため市町村に配分される額が増えている。

森林環境譲与税

大澤委員

森林環境譲与税は活用できる範囲が幅広いが林業費に当てるだけでなく、子どもの遊具や公園整備に使えないか。

中上農林課長

これまで民有林の保全管理についていた。使い道に関して改めて課で検討していく。

福寿寮使用料

佐藤委員

福寿寮の使用料が増えているが入居人数を増やす対策を行つたのか。

板東健康福祉課長

昨年から入居が増え、現在は満室となっている。

ふるさと納税

岡委員

クラウドファンディング型のふるさと納税は全国で300自治体以上、160億円以上の実績があり、やり方次第では有効的なものとなりうる。町としての現在の検討状況や考え方。

中村副町長

どんなことができるか検討しなければいけない。まずは一般的な返礼品があるふるさと納税と企業版ふるさと納税に力を入れていきたい。

基金の運用

大澤委員

基金の運用に関して、近年は多くの地方自治体が銀行預金から債券等の運用にシフトチェンジしている。さらに、進んでいる自治体

町の方で統一した包装などを作つて集約していただければ、協力農家も増え寄付額も伸びると思うが。

野口総務課主査

米の返戻品を増やすためには先行予約受付を行つていくことが重要。担当としては個人にあたつて地道に協力農家を増やしていくたい。

また、共通のパッケージは包括連携協定を結んでいる業者との事業の一環でできるかも知れないの

公式LINE

岡委員

町の公式LINEはもう少し発信回数が多くてもいいと思うがどのように改善していくのか。また、回覧板との差別化をどのように図つていくのか。

竹本総務課主査

アンケートなどをとり情報発信の内容について検討していただきたい。



ホームページ広告収入

村上委員

ホームページのバナー広告は収入面・内容の充実を考えても増やしていくべきではないか。

山下総務課長

今後ホームページの見直しを考えているので検討していただきたい。

中上会計課長

は複数ある基金の個別運用をやめ、一元管理し運用効率を高め、より大きな利益を上げて、財政難を克服する努力をしている。町でも検討する必要があるのでないか。

決算審査特別委員会

竹内委員

町の公式LINEでお悔やみは出せないか。

竹本総務課主査

現在、課と葬儀会社で協議中で今後内容の改善を進めていく中で検討していきたい。

ストレスチェック

佐藤委員

ストレスチェック調査業務の内容と結果は。

渡邊総務課長補佐

労働者50人以上の事業所で義務化されているもので、町職員で高ストレスと判定された方は25名、そのうち産業医との面談を希望した方は4名いた。

総合庁舎管理業務

卯城委員

ビル管理業務委託の業務内容は何か。

長谷川総務課長補佐

総合庁舎のため水質検査や空気の状況など法律で定められている項目があり、その業務委託料である。

空き家

岡委員

空き家調査で100件を超える空き家があると聞いたが、今後空

き家バンクの登録につなげていくための方策は。

鴻野総務課係長

町の現状を考えると空き家バンクに出ているものだけが取引されているわけではないため普段から情報を集めて、状況を把握し空き家情報として必要な方に提供している。

マツダ

大澤委員

マツダとの交流促進事業は町の次世代の人材育成の面で非常に有効と考えるが、今後の計画と小規模自治体での人選のマンネリ化の懸念に関しては。

鴻野総務課係長

今年に関しては高校生と地元業者と広島のコラボ商品開発の研究がテーマである。マツダ側もマンネリ化しないよう毎年テーマを変えたりミッションを与えたりしている。こちら側でもそれに応える形で進めていきたい。

スクールバス

岡委員

朝一便のスクールバス化を考えた時に何が支障になっているのか。一般利用をデマンド交通で対応するなどの方法を考えられないか。

竹本総務課主査

議事録システムの導入をしているが、どのように活用しているのか。

長谷川総務課長補佐

現状の体制は運転手の確保や様々な課題があり、今定例会終了後公共交通の在り方の全面改正を理事者に提案していく予定。今後は民間会社や利用者との協議や説明会を十分に取つて必要がある。

また、学校と教育委員会は初期の段階から連携が取れているのか。佐藤教育課長

小、中、高とも2～3件となる。以前よりいじめの認知件数は増加している。学校教育指導員が主となつて連携をとつていて。

岡委員

不登校の子どもへの対応は。

佐藤教育課長

教育相談室で受けた相談を学校側の確認を経てスクールソーシャルワーカーとの面談を持ち医療機関等へつなげている。教育委員も研修を行い、学校との連携も図っている。

いじめ問題

竹内委員

6年度でいじめがあったのか。また、学校と教育委員会は初期の段階から連携が取れているのか。佐藤教育課長



高校農業機材

佐藤委員

コンバインを中古で買っているが、使用頻度や面積を見てもその時だけリースした方がいいのでは。

金村教育長

コンバインは使用する時期が集中してしまうため必要な時に使はず刈り遅れにもつながるため中古のものを購入した。他の機械についても本来であれば最新のものを生徒に学んでほしいが、タイミング

決算審査特別委員会

グが合わずうまく借りることがで
きない問題も出てくるため、なる
べく価格を抑えて購入するものと
リースするものを併用していく。

絵本の原画

村上委員

6年度は原画の貸し出しがなか
つたが、依頼があれば貸し出しき
しているのか。また、原画展や企
画展が少ない理由は。

高橋教育課長補佐

原画の貸し出し希望の連絡があ
れば、依頼側の施設内容や保存方
法、防犯対策等を協議し貸し出し
を行っている。原画展、企画展に
関して6年度はノンタンの大規模
な原画展を企画していただけ、回
数は減った。

村上委員

絵本の里条例を制定したので、
原画を武器に絵本の里を盛り上げ
る計画はあるのか。

佐藤教育課長

原画は文化財なので保存環境が
厳しく(?)でも簡単に展示できる
わけではない。町全体で絵本の里
として何ができるか取り組み体制
をつくつていかなければと考えて
いる。

給食センター

竹内委員

学校給食センターは地産地消の
意義もあるが、施設の老朽化も激
しく、町費で毎年3千万を超える
予算がかかっているがこのままでは
いいのか。

中村副町長

建物が古く保健所からも幾度と
なく指導が入っている。今後どう
するかの方向性は定まつてはいな
いが、現在様々な検討を行ってい
る。

外国人人材確保

岡委員

外国人人材確保について現場の
声など担当課ではどうとらえてい
るか。

板東健康福祉課長

非常によく仕事をしていただい
ていると伺っている。東川の学校
で日本語の勉強もしているため、
コミュニケーションについても問
題はない。

君の椅子

竹内委員

君の椅子贈呈事業協力負担金25
万円の詳細は。

加藤健康福祉課主査
冊子製作費、デザイナーの交通
費、謝礼、デザイン依頼文通費、

贈呈式の経費、椅子製作費など。
卯城委員

卯城委員

ある程度の時期で区切りをつけ
て、より子どもの成長につながる
事業に転換すべきではないか。

中村副町長

これまで深い関係性を築いた中
での事業である。これに代わるもの
があればシフトできるが、現状
はないためこのまま事業を進めて
いきたい。

こども家庭センター

岡委員

こども家庭センターの設置によ
るメリットと現状は。

板東健康福祉課長

連携がとりやすくなり、こども
支援の事業が総合的に取り組める
ようになつた。

こども医療費

大澤委員

町では現在中学生まで医療費が
無料だが、6年度は旭川市など都
市部でも高校生まで無料化となり、
このままでは子育て環境として遅
れを見る。こども医療費の決算実
績を見ても、それほど財政の負担
にならないと考えるが、町でも高
校生まで医療費無償化の枠の拡充
を行うべきでは。

副町長
前向きに検討する。

診療所

卯城委員

6年度は看護師正職員が減って
いるが、職員体制は間に合ってい
るのか。

村椿診療所事務長

パート職員を増やしたため間に
合っている状況。
また、雨や雪で滑る場合の対応は。

佐藤委員

清掃費は据え置きでお願いして
いる。今年の3月からのため雪の
様子はまだわからないが、今のと
ころ転倒者はいない。



農業ブランド化

竹内委員

農業ブランド化協議会でふるさと納税の返礼品の検討や商品の受発注をすることは可能なのか。

中上農林課長

協議会の中でも複数回協議しているが完全な道筋ができていない状況。米の生産者の参加を呼び掛けているがなかなか参加いただけていない。今後ブランド化をどのように進めるか引き続き検討したい。

卯城委員

販売会に農業者が行っている話を聞かないが、本来は生産者や販売団体が出向き、直接消費者と触れることで、様々な情報を得たり、関係性を深める中で改善点などを見つけていくことに意義があるのではないか。

中上農林課長

じさんこプラザは期間も長く団体の協力もいただくが、平日や忙しいときは職員が行っているためそのような印象になっている。土日のイベントなどは各団体自ら行っている。参加する農業者を増やしていくよう、現在関係団体と協議している。



農業担い手

岡委員

担い手の高齢化により農家戸数は減っているが、大規模化も進み何とか耕作放棄地もなく現状維持されている。北海道担い手センターとの連携や、第三者継承も含めてどのような取り組みがされたのか。

中上農林課長

今後は交付金の削減など状況も変わり、大規模化がより進むことで、新規就農者が良い土地を取得できるかは難しい状況。第三者継承に関しては希望される農家がいたら、担い手センターの力を借りホームページで紹介していただく取り組みを行つていて1件の実績がある。いずれにしても町ではまだ各団体との話し合いが不足している。

佐藤委員

6年度は農業体験がなかった。体験だけでは移住定住につながらない。国の制度も活用しながら、最終的には土地の貸与など様々な点を検討しないと、ただの学生の体験学習になってしまいます。将来のビジョンを作つて農業者が理解してもらえる体制をつくっていかなければならぬと思つが。

中上農林課長

農業体験の受け入れは農業委員会からも担い手対策として話が出ている。改善組合の中で農地が余らない状況のため、なかなか担い手対策のトーンが上がってこない状況。ただ将来的にはそのような体制をとつていく必要があるとは感じている。

イベント用テント

竹内委員

各イベントで使うタープテントは6年度7張だったが実際に使えるのは2張だけ。需要が高いので新年度に向けて増やしていくべきだと思うが。

佐藤町づくり観光課係長

事業を消化する中でタープの需要が高い。今年度中に購入したい考えを観光協会とも話し合い、予算の執行状況を見ながら検討していく。

新商品開発

卯城委員

新商品開発、販路開拓支援事業補助金などのように活用されたのか。

佐藤町づくり観光課係長

米農家で、米を自分で販売するための米袋の製作、商店で冷凍で郵送するための袋の製作などに活用された。

卯城委員

店舗改修などは対応できないのか。現在は既存の商売から、事業拡大し多角化しているお店も増え、課としてそのような部分への支援も検討してほしいが。

佐藤町づくり観光課係長

店舗の改修にはこの補助金は活用できない。現在すでに営業されているお店向けの補助金がなく、商工会の方からランニングコストにかかる部分へ補助の拡大の要望も出ているので、内部協議している。

第4回定例会 9/10～19

今年度の第3回定例会では一般質問に6人が登場しました。

また、令和6年度の各会計の決算質疑を行い、会期も休会を含めて10日間の日程で行いました。

町長から提出された議案は、条例制定2件、条例の一部改正8件、組合規約の変更2件、教育長の任命、教育委員の任命のほか、一般会計、4特別会計及び2事業会計の決算認定、そして専決処分の承認1件、令和6年度普通会計健全化判断比率及び公営企業会計資金不足比率の報告について審議し、提出された議案は原案通りすべて可決しました。

また、定例会最終日の19日には、決算審査特別委員長からの一般会計ほか4特別会計及び2事業会計の決算審査報告、一般会計、介護保険事業特別会の補正予算、所管事務調査報告、要望意見書が1件が提出され、すべて原案どおり可決しました。

時間単位等で柔軟に利用できる新たな制度で、事業者の設備、安全対策、職員配置、衛生管理、個人情報保護などの基準を定めるものです。



絵本の館

改正内容は、議長24万5千円を26万円、副議長19万円を21万円、常任委員長、議会運営委員長17万5千円を19万円、議員16万5千円を18万円にそれぞれ引き上げるものでした。引き上げが妥当と判断された。

改正内容は、議長24万5千円を26万円、副議長19万円を21万円、常任委員長、議会運営委員長17万5千円を19万円、議員16万5千円を18万円にそれぞれ引き上げるものでした。

地域支援事業条例の一部改正

近年の物価及び人件費の高騰により、委託料が年々増加していることから、配食サービス1食当たりの利用料を400円から500円へ改定するものです。



山下 俊明（新任）
住所 元町23番4号
任期 令和7年10月6日～令和10年10月5日

教育委員の任命に同意



児玉 良絵（再任）
住所 西岡町237
任期 令和7年10月1日～令和11年9月30日

乳幼児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

生後6ヶ月から満3歳未満で、保育所などに通っていない子供を育てている家庭が月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず、

条例制定

条例改正

絵本の里づくりはまちづくりの根幹となり、目指すべきまちづくりの方向を示すことで、町、議会、市民全体で郷土への愛着、絵本の聖地になるよう知名度の向上を図り、豊かな地域づくりに資することを目的として、条例を制定するものです。



一般会計では、1355万円を追加しました。

主な内容は、自治体法務情報サービス使用料38万4千円、総合庁舎修繕66万円、ふるさと納税マッチング支援業務33万円、高齢者等の冬の生活支援事業350万円、保育所北側壁面改修工事60万円、蜂の巣駆除業務4万5千円、合併特別職報酬等審議会を4回開催し、社会情勢や他町村の状況を踏まえた



処理浄化槽設備整備補助金93万5千円、農業担い手経営継承・発展等支援事業補助金100万円、道の駅修繕料34万1千円、高等学校校舎外部塗装工事341万円、絵本の館バートタイム職員報酬手当95万2千円などを追加しました。



おか 岡 康照 議員

子どもたちが安全に遊べる遊具が不足しているが、整備する考えは

町長 課題を認識しており、森林環境譲与税の活用なども含め、新年度予算で具体的に検討を進めたい

岡 康照 議員

に公園や児童公園では、遊具が老朽化などの理由で撤去されて以降、特に低年齢層の子どもたちが安全に遊べる遊具が不足しており、保護者から設置や改善が求められている。子育てしやすい環境づくりや多世代交流の場の確保という観点から、まちなかの公園整備に対する町長の考え方を伺う。

早坂 町長

現在、町内の各公園では老朽化により危険な遊具を撤去しており、低年齢の児童が安心して遊べる遊具が少なくなっている現状は認識している。公園遊具の設置には、複合的なものになると数百万円から一千円を超えることもあり、厳しい財政状況からなかなか取り組めていないのが現状である。本年策定した「剣淵町こども計画」の子育て支援アンケート結果では、乳幼児の遊び場の整備は上位の要望であり、子育て支援のひとつとして公園施設の充実も重要であることから、財政状況を考慮しながら遊具の整備を検討していきたい。

岡 議員

安全のために遊具を撤去することは大切だが、その後、何年も新

岡 議員

遊具の更新や新設の必要性は十分認識しているが、どうしても優先順位が後になってしまふ状況があつた。しかし、アンケートで示された皆様の声を真摯に受け止め、今後はに公園に限定せず、きらうガーデンなども含め、どのような遊具が適しているか、現場と協議しながら導入を検討していきたい。



規設置が進んでこなかつた状況を町長はどうに捉えているか。保護者からは、「小さい滑り台など安全に遊べる遊具が欲しい」「散歩コースにもかかわらず小さい子が安全に遊べる遊具がほとんどない」といった声が聞かれる。こうした市民の声を受け、整備の優先順位をどのように上げていく考えか。

早坂 町長

遊具の更新や新設の必要性は十分認識しているが、どうしても優先順位が後になってしまふ状況があつた。しかし、アンケートで示された皆様の声を真摯に受け止め、今後はに公園に限定せず、きらうガーデンなども含め、どのような遊具が適しているか、現場と協議しながら導入を検討していきたい。

財源の工夫として、森林環境譲

額は僅かだが、他の財源と組み合わせることも含めて、木製遊具はまちの魅力づくりも必要と感じている。検討材料の一つとして加えさせていただく。

早坂 町長

本町は森林面積が少なく譲与税額は僅かだが、他の財源と組み合わせることも含めて、木製遊具はまちの魅力づくりも必要と感じている。検討材料の一つとして加えさせていただきたい。

岡 議員

公園での多様な遊びは、子どもの心身の成長や社会性を育む上で教育的にも重要であり、公園は子どもだけでなく多世代が交流する場所である。今後は、ベンチの設置など利用しやすいよう、継続的に工夫改善を進めていただきたいが。

早坂 町長

お子さんを見守る保護者のためにも、ベンチの設置は必要だと考えている。冬期間の移動も可能なベンチの導入など、工夫しながら検討を進めたい。

与税の活用はどうか。この税は木材利用の促進にも充てられ、道産材を活用した木製遊具を設置すれば、本町の魅力である木育の推進やPRにも繋がる。他町での活用事例もあり、複数の政策目標を同時に達成できるため、本町でも検討すべきと考えるが。



たけうち よしあき
竹内佳明 議員

早坂町長の3期目の総括と評価について この4年間、最後の1年間も含め何点と 評価されるか

町長 道半ばのものが結構あり、そういう結果から6月にもお示ししたが、『35点』の自己評価

竹内佳明 議員

今回が早坂町長の3期目の任期満了でもあることから、4年間の総括と評価をどのように自己判断しているのか、様々な課題や施策が必要なことは、4年間の一般質問等で議員側からも度々追求してきたが、いずれも残念ながら明快な回答が得られていない。

今一度、町政全般に目を向け議論したいが時間の制約等もあるため、①人口減少の課題と方策、②商工建設業の現況と支援策、③道の駅リニューアルや学校教育施設整備などの大型公共事業を控えた中での財政計画の3点に絞り町長の考えを伺いたい。

早坂 町長

一点目、就任時に少子高齢化による影響を3千人目標に維持したいと申し上げたが、現実的には厳しく維持できなかつたことを深くお詫びを申し上げる。

今後は、定住に向けた移住者用の宅地を供給し、移住を図りたいと考えている。

また、関係・交流人口増加の取り組みが引き続き必要と考えている。二点目は、地元商工会からの要

望に応えながら進めさせていただいているが、今後どの方策が望まれているか、関係機関と協議を重ね、新たな方策を考えていく。

三点目の財政計画については、中長期的な収支見通しのもと、歳入の確保と歳出の重点化、効率化を推進し、将来世代に過度な負担を残さない持続可能な財政運営を基本方針とするように考えている。

竹内 議員

今年3月に国土交通省は道内3市町をモデル地区として、二地域居住という方針を出されているが町長の考えは。

早坂 町長

一拠点生活・居住について、コンサル会社のプレゼンを来週、議会終了後に聴講する事で担当の方と打ち合わせしており、1つの素材として考えている。

竹内 議員

先般、産建文教常任委員会で北部の町を視察し、商工建設業関係の具体的な支援事例や活発な起業化の実態、実況を見聞したが、中心となる人材が必要と感じた。町で人の道筋をつけるのも必要だと思うが。

早坂 町長

地域環境が違うので、その点も考慮し、いい方策を考えればいいかと思う。

竹内 議員

町長の今現在の大型公共事業を含めた財政計画があればお聞きしたい。

早坂 町長

明らかに形の中では示せないが、大規模施設等は、一部基金で将来の支出に備え、今後財政計画を立てなければと思う。

竹内 議員

最後に町長として4年間、最後の1年間も含めて総括し、自己評価で仮に点数をつけるとしたら、ずばり何点と答えるか。

早坂 町長

非常に厳しい質問だが、赤点は免れ、道半ばのものが結構ありますかと思う。自己評価では、正直な話、あまり良い結果ではないと思っている。



むらかみ ちせ
村上 知世 議員

募集形態について、現在まで町

村上 議員

マッチングを図る取り組みとして、
おためし地域おこし協力隊制度を
利用できることとしており、サポート
体制については総務課主担当
や主管課担当者が、主に月1回の
月例打ち合わせ、隨時相談、企業
相談等、また必要な情報は、隨時
提供しており、活動に必要なセミ
ナー参加や資格取得をしてもらっ
ている。サポート体制として最も
重要なことは、地域おこし協力隊
員が地域協力活動を終了した後
定住、定着にむけた生活支援、就
職支援等を任期中に同時に進める
体制を構築することであり、主管

町の活性化、魅力発信、町の抱える課題解決 のため、地域おこし協力隊事業の有効活用を

教育長

専属の強力サポートが必要だと認識している
自治体として、しっかりと受け入れていく必要がある

村上知世 議員

早坂 町長

募集周知については町HP、日本移住交流ナビJAPAN、道のポータルサイトで行い、応募者にはマッチングを図る取り組みとして、おためし地域おこし協力隊制度を利用できることとしており、サポート体制については総務課主担当や主管課担当者が、主に月1回の月例打ち合わせ、隨時相談、企業相談等、また必要な情報は、隨時提供しており、活動に必要なセミナー参加や資格取得をしてもらっている。サポート体制として最も重要なことは、地域おこし協力隊員が地域協力活動を終了した後定住、定着にむけた生活支援、就職支援等を任期中に同時に進める体制を構築することであり、主管

村上 議員

協力隊が日常的な活動の中、行政の部分を手伝いながら開催することには差し支えない。

早坂 町長

募集周知については町HP、日本移住交流ナビJAPAN、道のポータルサイトで行い、応募者にはマッチングを図る取り組みとして、おためし地域おこし協力隊制度を利用できることとしており、サポート体制については総務課主担当や主管課担当者が、主に月1回の月例打ち合わせ、隨時相談、企業相談等、また必要な情報は、隨時提供しており、活動に必要なセミナー参加や資格取得をしてもらっている。サポート体制として最も重要なことは、地域おこし協力隊員が地域協力活動を終了した後定住、定着にむけた生活支援、就職支援等を任期中に同時に進める体制を構築することであり、主管

で受け入れてきた地域おこし協力隊の業務形態は町の業務をミッショニンとしたミッション型がほとんどだったが、外の目で剣淵町の活性化してくれる人材、若者を確保できる手段であり、協力隊側からは自分らしい生き方を求めて地方移住への挑戦をサポートしてくれる制度である。町の募集形態、周知手段、サポート体制等を伺う。

協力隊には後に続く協力隊の居場所づくり、町民を巻き込んだ活動をすることで事業を継続させることもある。協力隊全体での起業で起業を目指している人に向け、町に必要なサービスや店舗を提示して募集する起業型等、今後募集形態の幅を広げていく考えは無いか、また周知については、協力隊

応募にあたって自分がどんな生活状況の発信についてはどうか、サポート体制について現状は役場で

対応しているが人事異動で担当が変わり、関係する団体や協力隊にとっては負担となる。提案として専従者をおき、協力隊業務全般と町の人口若返りと活性化を目指して欲しいと思うがいかがか。

早坂 町長

全く違う環境から来て新しい価値観を受け入れ、新しい生活を確立していくのは大変である。大志を抱いて挑戦している協力隊を、町の抱える課題に取り組んでくれる人材として、お互いに有効な事業として活用するためにも、今後活動の場が民間に広がっていけば定着率も上がってくると思うが、町はこの事業をどのように利用していくつもりか。

早坂 町長

町民の皆さんとの交流を含め、応援していくことは喜ばしい。協力隊の方も積極的に地域と関わっていく、私たちもしっかりと受け入れていくことは自治体として必ずと思う。

ミッションがなければ田舎特有の環境等に負けてしまう、仕事のマッチングがうまくいかないと3年たつと次に行ってしまう。活動の広報は協力隊自身が報告を出すのか、いろいろ検討する余地があり、専属の強力サポートが必要だとは認識するが、方法については考えていかなくてはならない。

協力隊には後に続く協力隊の居場所づくり、町民を巻き込んだ活動をすることで事業を継続させることもある。協力隊全体での起業で起業を目指している人に向け、町に必要なサービスや店舗を提示して募集する起業型等、今後募集形態の幅を広げていく考えは無いか、また周知については、協力隊

応募にあたって自分がどんな生活状況の発信についてはどうか、サポート体制について現状は役場で対応しているが人事異動で担当が変わり、関係する団体や協力隊にとっては負担となる。提案として専従者をおき、協力隊業務全般と町の人口若返りと活性化を目指して欲しいと思うがいかがか。



おおさわ ひであき
大澤秀明 議員

ふるさと納税は今後どう実績をあげていくのか

町長 ポータルサイトの追加と企業版ふるさと納税にも力を入れていく

大澤秀明 議員

町長はこれまでふるさと納税の取り組みに力を入れていきたいと言っていた。しかし具体的な改革案は示せず、目に見える成果を上げられないまま任期を終えようとしている、これは重要な積み残し事業である。

今後人員の増強、PR方法や返礼品の確保策など、抜本的に見直していく日に見える実績をあげていかなければ、町民の納得は得られないと思うが、どのように取り組んでいくのか。

早坂 町長

昨年度は返礼品を17種類を増やしたり、米不足による需要増などから2423万円の寄付額だった。人員に関しては全体のバランスもあるので難しい。PR方法はポータルサイトの窓口を2つ追加した。ふるさと納税事業は今後も推進する必要性の高い事業であり、企業版ふるさと納税の発信と合わせ力を入れていきたい。

大澤 議員

今は全国の寄付総額は1兆2700億円、剣淵町の実績は全国約1780自治体中、剣淵は1546位。北海道の中でも161位で、全国の7割近い自治体が1億円以

上の寄付実績がある。
町が今後1億円という数字を目指すとなると、寄付件数で約600件の実績が必要。大幅に増やすためには主要商品である農産物の物量の確保と、売り切るPR方法を考えなければならない。本来兼務の職員でできる範囲ではない。

職員の増員が難しいなら、現在入っている委託会社の仕事内容の見直しをかけるべき。いずれにせよトップである町長が及び腰では伸びるものも伸びないと思うが。

早坂 町長

なかなか実績が上がっていない中、自信を持っていかつたが、強い気持ちをもつて取り組んでいく。

道の駅農産物直売所の充実を

大澤 議員

これまで商品の充実と売上増のために様々な議論を交わしてきたところだが、中でも直売所の販売組織や、販売方法などの機構改革の必要性を訴えてきたところである。町長もその必要性を認めてきたが、改革は進んでいない。今後どのような方策をもつて解決しきたいが、改めて進んでいく。今顧客の満足度を高めていくのか。

早坂 町長

開設当初から直売運営協議会のご協力をいただいているところである。これまで商品の充実と効率UPのためにPOSレジを導入し、また限られたスペースで最大限の効果を出すために協議会の会員専用の固定した商品棚の見直しを計らうとしてきたが、なかなか思うように進んでいない。空いている棚が目立つとお客様の購買意欲が薄まる傾向があるので何とか道の駅リニューアルに合わせて、今後の新たな仕組みづくりを構築するために、運営協議会と検討を重ねていきたい。また、他地域の特産物を取り扱うなどし商品のバリエーションを増やして、来館者の満足度を高めていきたい。

大澤 議員

今後リニューアルが進むと、道の駅は旭川以北の玄関口となり得る場所となる。これまでのやり方が悪いと言っているのではなく、より規模を大きくしていくために発展的改革という考え方が必要だと思うが。

早坂 町長

リニューアルに向けて今からでも検討を進めて準備していきたい。



さおとめてるたか
早乙女晃隆 議員

放課後等デイサービスの利用料金全額助成すべきでは

町長 現時点では財政的にも収入に応じた負担を理解して頂きたい

本年8月末時点で、放課後等デイサービスを利用する児童が4名おり、月々の利用者負担額は、概ね3千円から1万円の範囲にとどまっている。利用者負担の全額助成について、仮に町が全額を助成する場合、国等の補助事業は適用されず、その費用はすべて町の負担となる。また、全額助成が実施されるとサービス料や利用回数が増え、上限額いっぱいまで利用されることが想定される。そのような状況となつた場合、現状の利用児童数で試算すると、町の負担はある。さらには、放課後等デイサービスの利用が、増加する可能性が高く、町負担はさらに増えるこ

障害のある子供とその保護者は、療育、医療、送迎等日常的に多くの負担を抱えており。本町では、現在、利用料金について、収入に応じて、3段階で1割を保護者が負担しているが、このことが家庭にとつて経済的にも心理的にも重荷になっている実態がある。子育て支援、教育機会の均等、さらには、地域に安心して暮らせる環境づくりを進める上でも、利用料金を全額助成すべきと考えるが、町長の見解を伺う。

早坂 町長

本年8月末時点で、放課後等デイサービスを利用する児童が4名おり、月々の利用者負担額は、概ね3千円から1万円の範囲にとどまっている。利用者負担の全額

早乙女晃隆 議員

とが予想される。以上を総合すると、本町の財政状況に鑑み、現段階で全額助成を導入する」とは困難であると考える。

早坂 町長

現時点では、国の制度に沿つておこなつていいくので理解いただきたい。

早乙女 晴美 議員

特定地域づくり事業協同組合制度の導入について

予算には限りがあり、何らかの形で線引きをすることは理解している。しかしながらこの放課後デイサービスの利用料金に関しては、障害を抱える家庭の特性や実情を考慮すれば、その限りではないと思う。

本町においては、人口減少と高齢化が進み、地域の担い手不足、特に農業や高齢者施設、冬の除雪など多くの事業で深刻な人材不足が続いている。この課題に対応するため、国が創設した特定地域づくり事業協同組合制度は、地域の事業者が連携し協同組合を設立して、安定的な雇用を確保し、幅広い分野に人材を循環派遣できる仕組みである。しかしながら、この制度導入には、地域の小規模事業

それを行政でやつてくれつていふことでは全くない、商工会なり、農民連盟なり、福祉の施設関係者なり、調整もしづらいところがあるので、行政の方で旗を振つて、そういう会合なりを開くようになきつけるところを期待している。

早坂 町長

まずは、国や先行自治体の事例を学びながら、その上で、地域の皆様と意見交換を重ね、導入の可能性について慎重に検討したい。

者間の調整や制度理解の普及、さらには、組合運営の事務負担など事業者だけでは乗り越えにくい課題がある。こうした調整や制度設計は、やはり行政が旗を振つて指導するところが不可欠であると考える。

そこで本町の人材確保、地域維持の観点から、特定地域づくり協同組合制度の導入についてどう考えるか、行政が中心となって、関係事業者への説明や組合設立の支援を行うことについて、町長の考えを伺う。

各事業者の制度に対する理解が必要、短期的な労働に対して手をあげる事業所の数がどれほどあるのか疑問であり、調査が必要。



さと う ひろかず
佐藤宏和 議員

農業の未来を考えるときに、スマート農業の一層の推進と支援が必要では

町長 スマート農業機器の導入を進め、改定期に制度を検討していきたい

佐藤宏和 議員

農業は、労働力不足が大きな課題となつてあり、剣淵町はその課題に対応するため、令和2年度から、スマート農業促進事業により5年間で利用者は、120件。助成額は、2248万一千円となり、一定の支援実績を上げている。しかし、過去に助成を受けた場合、機種の違うもので、さらに作業目的が違うものでないと対象にならない。そのことから、年々対象にならない農業者が増える可能性がある。スマート農業の技術は日々進化しており、普及も拡大傾向にあることから、助成対象の機械など助成内容の見直しが必要であり、重要性を十分理解した上で、一層の推進と支援が必要かと思うが町長の考え方伺う。

早坂 町長

剣淵町の制度としては、スマート農業の導入に向けた支援として実施してきており、ドローンや自動操舵GPSガイダンスなど、多様な機械が導入されてきており、多い方では、4回程度補助を受けられている現状となつてある。令和5年度に制度を延長し、本年度が最終年となるが、省力化や効率化を進めていくためにも、スマ

ト農業機器の導入を進めていく必要性は高いものと判断される。今後、改定期に制度を検討していくないと考えていね。

佐藤 議員

要件を緩和し、例えば3年経つたら同じ機種でも利用できるなど、予算の関係を、もう少し幅広く利用してもらうために、助成金の上限を30万円から20万円に抑える様な、柔軟的な考でスマート農業の推進の旗を下げるよう、前向きに検討していただきたい。

早坂 町長

導入の実績を見ながら見直しをできるか検討し、8年度の当初予算に盛り込んでいきたい。

剣淵町産業経営者育成資金の活用について

佐藤 議員

1990年から実施された産業経営者育成資金が廃止になり、1年となるが、昨年の一般質問の答弁では、償還が終わり利用者の完済をもって、新たな施策を研究し、スマート農業の件数をあげたいとの内容であつた。資金完済は残り8年の2032年まであり、産業

経営者育成資金の総額は、2億3036万1千円、未償還金額は6619万8千円。現在の資金残高は1億6416万3千円と大きな金額となっている。2032年を待たずに資金本来の目的である剣淵町の産業振興や発展のために、早急に新たな活用も検討すべきかと思うが。

早坂 町長

当初の基金の目的は、無利子の資金で機械等の導入を促進することであり、基金を使うことを目的としていることを御理解願う。軽減された利息を仮に3%とした場合には200万円となり、廃止の際にも説明した通りこの金額に見合う補助金の増額として、スマート農業補助金の予算枠を増額して対応してきた。また、基金の残高が1億6400万の活用の検討と言つ話だが、まだ償還が残っている。一応基金としては、償還が終わり当初の目的が解消する形になつた時に町の1つの一般財源の中にはなるかと思つ。別な農業関係の活用について気持ちは十分わかるが、今の時点では会計上微妙なところである。新たな制度を検討していくのは償還が終わつてからとしたい。

この4年を振り返って

任期の節目にあたり、議員それぞれが感じたこと、伝えたい思いを一言にまとめました。



本音で話し合える議会活動に心掛けてきました。同僚の協力により和やかな4年間でした。絵本の里、アルパカ、映画じんじんなど、町民の皆様、理事者、職員を始め多くの関係者のご協力により形になりました。24年間本当にありがとうございました。

高橋 毅 議員（議長）



これまで「議員に出るより結婚が先だろ」と散々言われてきた私ですが、この任期中に縁あり結婚することができ、子どもも生まれ親となりました。また、副議長として町内外での活動の幅が広がり様々な分野の人達と地域課題を考えしていく事ができました。

大澤 秀明 議員（副議長）



議員の皆さんのが支えを得て議員の役目を終えます。初当選も含め色々な事が思い出され、理事者並びに先輩議員、職員の皆さんからも数々の叱咤激励も懐かしく反省の日々を思い出します。お世話を頂いた皆様、本当に温かく見守って頂きありがとうございました。

卯城 規伊 議員（議運委員長）



年齢なのか、この4年間は早く過ぎた気がします。今任期中に議員定数の削減を実現できたことは、議会と住民の思いが一つになった結果だと思います。絵本の里条例の制定等一般質問により実現できた件についても、今後充実していきたいと思います。

酒井 修 議員（総務委員長）



町民の暮らしを守り、より良くするために、地道な活動を続けてまいりました。委員長として所管事務調査にも主体的に取り組み、町の課題解決や提案にも力を注いできました。皆様の温かいご協力に心より感謝致します。今後も全力で取り組んでいきます。

岡 康照 議員（産建委員長）



初心を忘れず、全定例会16回連続で一般質問を25回行ないました。理事者からの明快な返答は中々引き出せませんでしたが、貴重な経験をさせていただきました。常に「気づき」をモットーに更なる探求を目指してまいります。

竹内 佳明 議員



農家代表の思いで、町政に質問や意見を言い続けてきたが、考え方や思いが伝わらず、まだまだ勉強不足です。これからは農業だけではなく福祉や教育にも力を入れ、住み続けたい魅力ある元気なまちを目指して「あなたの声を力に変えて」がんばります！

佐藤 宏和 議員



剣淵町議会議員として一期目は総務厚生委員、監査委員の任に付き、世界的なコロナの収束や物価高という中で町政に携わり、議会内外で取り組めた事もありましたが、見えていなかつた部分もあったので、今後もこれから剣淵町の為に尽力します。

早乙女 晃隆 議員



任期中、多くの方々に支えられ、地域の力と人のぬくもり、そしてつながりの大切さをあらためて感じました。町の未来を共に考えてくださった皆さんに心より感謝申し上げます。これからも、このまちの未来を見つめ、皆さんとともに歩みを重ねてまいります。

村上 知世 議員

上川管内 町村議会議員研修会



上川管内町村議会議員研修会が11月6日に旭川公会堂ホールにて開催されました。始めに、関東学院大学教授の牧瀬 稔氏に「議会改革の現状と課題～地方議会の将来について」と題して講演をいただきました。2006年に栗山町が全国初の「議会基本条例」を制定し、議会改革の時代が始まつたが、現在は行政監視機能・政策立案の強化が求められている。次に、弁護士の三輪記子（ふさこ）氏に「最新裁判例から分かるハラスメント問題との向き合い方～その原因と予防法～」と題し、様々な実例を出しての講演でした。昭和の常識に慣れ親しんだ者としては、背筋の伸びるお話をでした。

札幌剣淵会総会 懇親会開催



10月19日に令和7年度第45回札幌剣淵会（皆川彰会長）の総会、懇親会が札幌ガーデンパレスで行われました。札幌剣淵会からは19名の参加、剣淵町からは中村副町長始め9名の参加がありました。総会では、昨年度の活動報告があり、その後の懇親会では、剣淵町の特産品が参加者全員に当たる抽選会も行われ、昔話に花を咲かされ、一年に一度の交流を楽しまれておりました。なお、札幌剣淵会も会員の減少が続いており、新規会員を募集しておりますので、知り合い等がいましたら事務局までお知らせください。

射水市制20周年記念式典参加



11月1日に姉妹都市の射水市市制20周年記念式典に、中村副町長と高橋議長が参加されました。式典は富山県知事、富山県議会議長、地元国議員も参加し、日本テレビ系の「ZIP」のコーナー「旅するエプロン」に出演するなど多方面で活躍している俳優・ミュージシャンの伊藤樂さんが司会／進行を務める中盛大に行われました。

式典では、国の指定重要無形民俗文化財の稚児による加茂神社の舞楽「胡蝶の舞」の踊りや射水市出身のオペラ歌手による国家独唱、「射水市民の歌」の合唱があり華やかな式典となりました。

編集後記



異常な暑さの夏がやっと終わつたと思えば、過ごしやすいはずの秋はあつという間に過ぎてしまい、また、厳しい冬を迎えることになります。残念ながら北海道らしい冬は今なお健在です。これからは本当に四季ではなく、一季になるのでしょうか。今号の表紙を飾ったのは、11月8日に開催された剣淵町文化祭の写真です。この発表に向けて、皆さん一所懸命に練習され汗をかれたことと思います。その汗が若々しい身体を創つていると感じました。風呂上がりの汗を冷えたビールで潤すだけでは駄目だと痛感しました。

（酒井）